



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

石井, 英真

CITATION:

石井, 英真. はじめに. 教育方法の探究 2020, 23: i-i

ISSUE DATE:

2020-03-14

URL:

<https://doi.org/10.14989/250859>

RIGHT:

はじめに

『教育方法の探究』の第 23 号をお届けします。本号には、4 本の論考が寄稿されましたが、そのうち 2 つは、ICT やデジタルメディアの問題を扱ったものです。経済産業省の「未来の教室」、文部科学省の GIGA スクール構想など、AI の進歩などがもたらす技術革新が学校にも大きなインパクトを与えつつあります。そうした政策は、民間（企業）への規制緩和ともパラレルに展開しており、学習や業務のスマート化の名目で、さまざまな ICT 機器やアプリが学校に入ってくることが予想されます。手法の導入など、技術的な側面のみが注目されがちですが、その深層において、学校や教育の自明の前提の問い直しが進行しており、今回寄稿された諸論考は、教科を学ぶ人間生成上の意味とは何か、自己を表現しつつあることとはどういうことか、教師の力量をどう考えていけばよいのかといった本質的な問いを考究することで、現代的状況に対しても直接的・間接的に示唆を与えるものとなっています。

そうして時代の新たな局面を感じさせる今年度は、教育方法学研究室としても大きなイベントに取り組んだ一年でした。2019 年 6 月 29、30 日に日本カリキュラム学会の第 30 回記念大会を京都大学で開催しました。記念大会ということで、オーストラリアからロイス・サドラー（Royce Sadler）先生をお呼びして国際シンポジウムを開催するなど、いろいろなチャレンジもありましたが、例年を大きく上回る 400 名近い方に参加していただき、研究室の現メンバーの働きにより、そして OB・OG の力も借りながら盛会のうちに終えることができました。改めて、御礼申し上げます。さらに、この夏には、『カリキュラム研究事典』の翻訳をミネルヴァ書房から刊行予定です。この仕事も、研究室 OB・OG と現研究室メンバーがチームで取り組んできたものです。それぞれが自分なりのテーマで自由に研究を進めながら、ゆるやかにいろいろなものを共有しながらつながり、いざというときは協働で大きな仕事を成し遂げる、そんな研究室のよさをさらに発展させていければと思っています。

2020 年 2 月

教育方法学研究室准教授

石井 英真